

北近畿タンゴ鉄道

素材研究
(国内)



今年8月から10月まで、天橋立と舟屋群で有名な伊根を結ぶ「伊根航路」が31年ぶりに復活するほか、7月から11月まで丹後半島をバスで周遊できる企画切符も販売されている



週末に運行される「くろまつ」の定期コースでは、地元の菓子店や旅館、酒蔵、料亭の協力などで季節毎の特別メニューを提供。SAKEソムリエによるお酒と料理の楽しみ方講座も開催されている



宮津線岩滝口駅では地区婦人会による「ふれあいほっとさろん」が開催されている



名前の通りこげ茶のボディに金色の細かいラインを施し、えんじ色のアンダーラインが全体を引き締めるクラシックな外観の「くろまつ」

「くろまつ」の車内は、天然木の使用によりシックで落ち着いた雰囲気に

デザイン列車を地域観光活性化の目玉に 「海の京都」構想を支える新素材としても注目

京都府北部の丹後地域と兵庫県北東部の但馬地域を走る第3セクターの北近畿タンゴ鉄道(KTR)は、生活路線として地域

住民に愛される鉄道を目指すと同時に、沿線エリアにおける地域観光活性化のベースとしてもその重要性を増してきています。

スイーツ・ランチ・地酒の3つのプログラムで運行

KTRは今年5月、開業当初から活躍してきた普通車両を全面リニューアルした「丹後くろまつ号」の運行を開始しました。こげ茶の車体と落ち着いた雰囲気の内装が特徴の「くろまつ」は、車内にキッチンを設置。週末を中心に運行されている定期コースでは「スイーツ」「ランチ」「地酒」という3つのプログラムが用意され、平日は団体による貸切予約も受け付けています。

「海の京都」の走るダイナミックなイメージで開発された「くろまつ」は、昨年デビューした「あかまつ」「あおまつ」に続き、九州各地で人気を集めている観光列車などを手がけた工業デザイナーがデザインを担当。京都府北部地域を京都市内に比肩する観光圏にしようという「海の京都」構想を支える存在としても、デザイン列車は注目されてきています。

7月29日に催行された「山陰海岸ジオパークツアー」は、6月中旬の発売から3日で完売。10月にも同じ内容でツアーが予定されるなど、京阪神などに沿線地域以外からの集客力にも期待が高まってきました。

地元の人々の協力も得て着地型の成功モデル目指す

KTR鉄道事業再構築準備室によると、KTRはこれまでも、天橋立／西舞鶴間での一旦停車や由良川橋梁での徐行運転など、車窓からの景色を観光資源として活用してきていますが、「くろまつ」の定期コースでは、地元の店舗との協働を通じて内容の充実を図り、「地域との連携による着地型の取り組みにも第2歩を踏み出した」(同準備室)形となっています。

KTRでは、天橋立がある宮津湾に近い宮津駅から京丹後市内の駅まで、地元旅館の女将らの協力により観光案内を行っているほか、宮津線岩滝口駅でも、無人駅舎を活用して地区婦人会による「ふれあいほっとさろん」を毎月第2日曜日に開催。また、宮津線栗田駅での地元海洋高校生らによるミニ水族館の設置や宮津線但馬三江駅での地元住民による駅舎を活用した蕎麦屋の営業など、駅を軸とする賑わいづくりにも取り組んできています。

KTRとしては「ツアー開発などを通じて、さらに踏み込んだ形での着地型の成功モデルも目指したい」(同準備室)考え、デザイン列車の導入は沿線における地域観光の活性化にも貢献していくことになりそうです。